

津浪之由来つなみのゆらい（坂口俊夫家文書）

元の所在地 … 日高郡由良町里

関連する津波 … 安政南海地震津波

作成された年 … 安政元年（一八五四）

作成者 … 毛綿屋平兵衛（横浜浦）

平成二十八年度調査、県立文書館へ寄贈

嘉永七年（安政元年）十一月五日に発生し

た安政南海地震津波の直後に、海部郡横浜浦あま

（現日高郡由良町里）に住む四九歳の毛綿屋平兵衛が記した有名な古文書です。

平成二十八年、「地域に眠る『災害の記憶』と文化遺産を発掘・共有・継承する事業」を機に文書館へ寄贈いただきました。

文書の内容は、①宝永地震津波（一七〇七

年)のこと、②安政南海地震津波に至る前兆現象、③伊賀上野地震(嘉永七年六月発生)のこと、④地震・津波の前兆現象(あぶき)、⑤異国船来航、⑥嘉永七年十一月四日に発生した安政東海地震による横浜浦周辺の被害状況、⑦翌五日に発生した安政南海地震津波による横浜浦周辺の被害状況、⑧紀伊国内の被害状況、⑨四国の状況、⑩余震、⑪津波による横浜浦周辺の浸水域、⑫大地震・津波の際の心得、⑬紀州藩の対応、⑭物価状況、⑮絵図と、豊富です。

特に横浜浦を中心とした由良湾沿岸地域の被害状況が詳しく記されており、非常に重要な災害記録であることから、⑦の部分を展示しています。

「どたんくくくくくく」と海鳴り

を描写するなど、当時の恐ろしさ・緊迫感が伝わってきます。

